

## 「高齢者住宅新聞」 網谷社長に伺いました

～2022年、高齢者介護と住宅/施設をとりまく現状と課題～



高齢者住宅新聞社社長。1992年、大学卒業後「亀岡太郎取材班グループ」の「全国賃貸住宅新聞社」に入社。2006年同グループ内に「高齢者住宅新聞社」を創刊、2007年代表取締役就任。高齢者に関わる施設や住宅のほか、高齢者福祉・介護に係わる幅広い情報を事業者・一般に提供。更に毎年東京、大阪にて開催される「住まい×介護×医療展示」を主催。セミナー等の主催も多数。

「科学的介護」への取り組みを事業者選択の目安にする時代が来るかもしれません。

Q: さて、2022年、現状を踏まえての高齢者の住まい・施設のあり方、選び方とは？

網谷: 高齢者の住まいはざっくり分けるとすればいわゆる「施設系」と言われる「介護老人福祉施設<特別養護老人ホーム: 特養>」「介護老人保健施設<老健>」「認知症対応型共同生活介護<グループホーム>」「介護付有料老人ホーム」など原則介護サービスが含まれるものと、サービスは外付けとなる「住宅型有料老人ホーム」「サービス付高齢者向け住宅」他、に分けられる事になります。「科学的介護」の導入で「地域包括ケア」に厚みを持たせ、在宅介護を充実させていきたいのが国の考え、後者の数が少しずつ増えているのが現状で、福祉先進国と言われるフランスなどでも同様の傾向が見られます。

Q: さて所謂「施設系」の状況は？

網谷: いわゆる「施設系」の「特養」や「老健」「グループホーム」は本来その目的や入居者の対象があるわけなのですが、サービス外付けの「住宅系」も含め、現在は混沌としています。地域の特性や一人ひとりのニーズに応じて行こうとすると画一的な対応が出来ないのが現状です。

Q: 類型化されている「施設」役割や概念がくづれつつあると、いうことでしょうか？具体的には

網谷: 例えば「特養」と言う重度の方の受け入れ<要介護3以上>、料金の面での配慮がありましたが、10年以上前から「新型特養」と言う名で政策的には完全にユニットケアと個室へのシフトが見られ、料金的なメリットが薄れつつある。「特養」も高齢者の「住居」と言う考え方からすると流れは当然なのですが…。

Q: 「介護老人保健施設」<老健>の「特別養護老人ホーム化」言う声も聴かれます。

網谷: 本来「老健」に期待されている事は「在宅復帰」「リハビリ」等です。「グループホーム入居準備軍」かもしれません(笑)。しかし、現状としては入居者の重度化と共に「特養」とあまり変わらないことをしているケースもあります。寝たきりの方でもリハビリを希望されれば、拘縮予防、離床介助などを実施しますが、主としては介護者の介護軽減ということで入居されることが殆どです。また、「特養」入居待機中だが自宅で介護が出来ないとして利用される方もいます。老健の場合その地域性によって、施設の役割も異なっているのが現実。過疎で施設整備が十分に行き届いていない地域の「老健」では、「特養」の役割を期待されるでしょう。「看取り介護」に積極的に取り組むケースもあります。反対に、在宅サービスが充実している地域では「老健」がしっかり在宅介護を支える機関として機能しているところもあります。

Q: そしてグループホームも医療依存度の高い方のお問い合わせや入居希望が増えてきている。勿論ほとんどの方が「終の棲家」としてご入居を考えられています。

網谷: 施設の形態を問わず「認知症」「医療との連携」「終の棲家」これらへの対応は介護施設運営のもっとも重要な課題です。特にユーザー側からすると「高齢者の住宅・介護施設=終の住み家」と言う思いもあるでしょうが、残念ながら施設は病院ではありません。自分のニーズに合わせてこれらの対応の限界点をしっかり見極める必要があります。慌てて「施設」を探すのではなく、出来る事なら、もう一度「住宅」を探すというスタンスで、時間をかけ「施設」探しをすることが必要と考えます。

今月は「高齢者住宅新聞」や「住まい×介護×医療展(旧高齢者住宅フェア)」等、紙面やイベントを通じ広く介護に関わる情報を発信されている高齢者住宅新聞の網谷社長にお話を伺いました。

Q: 網谷社長、ありがとうございます。4年ぶりの登場になりますがこの間に高齢者介護を取り巻く状況、また介護・施設に関わる環境はどのように変化をしたのでしょうか？

網谷: 4年前にも触れた三つの課題「財源の不足」「人材確保」「サービスが足りない」と言った「介護3大不足」がなかなか解消されないのが状況です。そんな中、3年に一度見直される「介護保険制度」「介護報酬」の新しい仕組みが昨年からはじめました。この中で最も関心を集めているのが「科学的介護の導入」です。現時点で介護保険の全てのサービスに導入されている訳ではありませんが将来的にはサービス全般に導入されることが予想されます。

Q: 介護事業者間でも関心の深い「LIFE(ライフ:科学的介護情報システム、Long-term care Information system For Evidence)」ですね。

網谷: その通りです。'90年代から医療分野においては、「根拠(Evidence)に基づく医療」が実施されていますが、「科学的介護」とは介護の分野でもこれにならぬ各々の介護事業者が利用者の「ADL」「栄養状態」「口腔機能」「認知症の状態」などのデータを提出、蓄積されたデータをフィードバックし、そのデータを基に介護を行い、利用者サービスの向上、現場ケアの改善、効率化の推進に役立てる。併せてそれを基に事業者への介護報酬<加算>を算定していくというものです。

Q: 介護事業者間では「LIFEに取り組まない生き残れない」といった危機感が聞こえてくるのは報酬マターにありますね。

網谷: 勿論、背景には介護保険給付費の増加を抑制したいという意図が見てとれますし、財政対策の要素を持っています。介護業界の抱える「三つの課題」解消の一助にしたい考えです。

Q: 「科学的介護」の導入は一般の利用者に対してはどのような影響やメリットがあるのでしょうか？

網谷: 利用者にとってのメリットが直ぐに現れるとは考えにくいですが、将来的には事業所からの主観的な情報だけでなく利用者ニーズに適したサービスを選択し易くなる、また科学的に効果が認められたケアで経験や感覚ではなく、経験の浅いスタッフでも効果の高い介護サービスを提供できるようになることが考えられます。しかし ICT、AI の導入が様々な業界に比べ遅れていると言われる介護業界では現場スタッフの ICT に対するリテラシーも障害になるかもしれません。また対人サービスにはつきものの「笑顔」「ふれあい」「やさしさ」等のキーワード、更に「属人性」とどのように折り合いをつけていくかも課題です。現状では取り組みに関して言えば規模的に大きな事業所の方が積極的なようです。システム、考え方が普及する頃には今よりも事業者間の格差や淘汰が進むことも考えられます。



「高齢者住宅新聞」は「高齢者の住まいと介護・医療を考える」をコンセプトに、2006年4月に創刊しました。定期的な実施される報酬改定や制度改正のリアルタイムな動向、介護事業者・医療機関の先進的な取り組みなどの情報を週刊で発信しています。



川崎市中原区のグループホーム「グループホームのんびりーす」より

## 「口福(こうふく)の会」開催!!

入居様が楽しみにしているイベントの一つに「口福の会(こうふくの会)」という催しものがあります。「口福の会」とは、バナナ園グループが催す食のイベント、プロの料理人を各グループホームにお招きし、施設のキッチンで調理をし、出来たての料理を振る舞い入居者様にレストランで食事をするような非常日常を楽しんで頂くというものです。緊急事態宣言もおさまり、少し世間に明るさが戻りつつある11月18日、川崎市中原区のグループホーム「グループホームのんびりーす」にて初めてのこの「口福の会」が開催されました。これまではキッチンやリビングの広い他施設と合同で開催され、そこに招待され入居者様とスタッフ「数人」で出向いてレストラン気分を味わっていました。しかし今回はコロナ禍もあり当施設での単独開催。プロの料理人の岩下先生をお呼びし、入居者様「全員」で美味しいコース料理を堪能することができました。朝からスタッフはテーブル拭きや花瓶等の会場セッティングから、使用する食器の準備で大忙し。入居者様はいつもの着慣れたトレーナーから、お洒落なシャツやジャケットにお召替え。女性はお化粧もされより一層華やかなムードに。11月の開催となったため岩下先生からは「少し早いですが、クリスマスを意識してキノコをメインとしたメニューを用意いたしました、どうぞ、お楽しみください。」とお話があり入居者様は大喜び。調理が進むにつれキッチンからはガーリックの香ばしい薫りやジュージューという良い音がしてきて「いい匂いがしてきたね!」「楽しみだわ!」、お料理を待つ時間から既にイベントはスタートしています。綺麗に盛りだされた美味しいお料理の出来立ての香り、食感を楽しむことはもちろんのこと、お料理から広がる入居者様同士の会話は弾み、いつもに増して笑顔も多く、楽しく、懐かしい食事になりました。また、入居者様の笑顔、そしてきれいに完食して下さった食器を見ると朝から準備で大忙しだったスタッフの疲れを吹き飛ばしてくれる力にもなりました。食事が終わると入居者様から「次回はいつ来てくださいますか?本当に美味しかった!」「次回は1月か2月に来ますね。皆様、楽しみに待っていて下さいね。どうぞお元気で過ごし下さい。」という岩下先生のお言葉に入居者様からは「必ず来てくださいねえ〜」。次回を楽しみに皆で体調に気をつけお待ちしています。



この日は入居様には少しドレスアップをして頂き、特に女性の皆様にはお化粧も...、しっかり雰囲気作りをして「外食」を楽しんで頂く。



2017年スタートの「口福の会」。料理家/料理研究家/コンサルタントの岩下美帆先生を各グループホームにお招きし、本格的なコース料理を入居者様に楽しんで頂く。この日は施設リヴィングをレストラン風に仕上げ、スタッフもいつもとは違うエフォードで演出。

### バナナ園グループで働きステップ・アップをしませんか? 介護スタッフ募集中

★介護は7行'イア~未経験だからこそその7行'イアが必要です!

#### ■募集要項

★職種:ケア・スタッフ<①正社員/②非常勤職員>★無資格・未経験からスタート/年齢不問

★給与:① 月給:224,781円~<18歳資格なし夜勤6日含む>

② 時給1,040円<無資格>~1,190円<介護福祉士>

※夜勤1回18,000~20,000円<介護福祉士>①②とも処遇改善加算交付金含

★時間:9:00~17:00 17:00~翌9:00

★待遇:社保・有休・交通費規定内支給:月額50,000円迄

★勤務場所:当社各施設10箇所の中から通勤し易い場所を選べます。

●問合せ:(株)アイ・ディ・エス 採用担当まで

☎044-455-6117

2022年3月新卒社員募集中

会社説明会随時開催中

エントリーはこちらから→



マイナビ2022



川崎市中原区のグループホーム「のんびりーす等々力」より

## 手形アートで季節の飾りつけ「長寿の樹」

空を見上げると青空が高く広がり、足元には紅葉した落ち葉が色鮮やかに広がっています。肌をなでる風も少しづつ冷たくなって、秋のから季節の移ろいを感じさせる時期になりました。もうすぐ本格的な冬ですね。川崎市中原区のグループホーム「のんびりーす等々力」では、入居者様の手形をもみじの葉に見立てての手形アート、手のひらに絵の具を浸けてペタペタと、季節の飾りつけを制作することにしました。もともと手形アートは、子どもの成長記録である手形や足形をモチーフにしたアート作品で、手形や足形をさまざまな動物やお花などに見立てておしゃれに可愛く仕上げます。手形アートは画用紙や絵の具などがあれば簡単にチャレンジできることもあり、また創造力や手のひらの感覚を呼び覚ますため高齢者施設でも静かなゲームになっています。早速、皆さんと絵の具の色を選び、いざ手のひらに絵の具を塗ると「うわ〜、何とも言えない感覚だねえ〜」と嬉しそうに笑って勢よく「えい!!」と手を押し付ける方や、何が始まったのかとびっくりされている方、「私もやる」と意外にも乗り気で参加される方、無言で手を差し伸べ参加されるご入居者様もいらっしゃいました。中には「しょうがないな」と渋々、参加して下さる方もいましたが、皆様で和気藹々と元気で色鮮やかな手形アート「長寿の樹」を完成させる事が出来ました。よく見ると手の大きさや形も一人一人違って、個性を感じますね。入居者様の普段とは違う反応や表情、童心にかえられ子供のように楽しんでいる姿を見ることができ、なんだか私たちスタッフもやってみたくなるほど嬉しくなっていました。10月の終わりにようやく緊急事態宣言が解除され、少しずつ新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向ですが、油断は出来ません。入居者様の外出は勿論、来客、ボランティア様等の受け入れ、そして面会に来られるご家族の皆様には、まだまだ不自由をおかけせねばなりません。当面は感染防止のため「室内で如何に皆様に充実した時間を過ごしていただくか?」工夫の日々が続きそうです。



手形アートはわが子の愛おしさや再認識できる大切な宝物として子供の手形や足形をさまざまなモチーフに見立てたアート作品。最近では感覚の楽しさや想像力を掻き立ててくれる効果もあり高齢者施設でも静かなゲームになっています。

## バナナ園グループ

【グループホーム】

- 川崎大師バナナ園 ☎044-280-2386 ●第2バナナ園 ☎044-587-1773
- バナナ園武蔵小杉 ☎044-863-7101 ●バナナ園ほりうち家 ☎044-722-5361
- のんびりーす等々力 ☎044-750-9203 ●のんびりーす ☎044-422-2295
- バナナ園生田ヒルズ ☎044-911-1599 ●バナナ園生田の杜 ☎044-789-5691/5692
- バナナ園生田の泉 ☎044-789-5693 ●バナナ園横浜山手 ☎045-264-9634



## グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせは右記の各施設もしくは総合案内

044-455-6119



月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)  
通算第205号 編集:株式会社アイ・ディ・エス  
川崎市中原区新丸子町734-2 ☎044-455-6119  
<HP> <http://www.bananaen.com/>